

～食べ物について話してみよう～

A「今回はMさんが残念ながらお休みですので、3人で対談をお送りします。」
 F「リーダーがいなくてさみしいですが、3人でがんばりましょう…。」
 S「はいっ！（…突っ込み役のMさんがいないけどだいじょうぶかな？…）」
 A「対談のテーマは‘食べ物’にしようかと思えます。『誰が知りたいの？』と突っ込みを受けるかもしれませんが（笑）、みなさんの好きな食べ物は何か？ちなみに今日お休みのMさんは偏食家なんだそうで。」
 F「お昼休みに食べようとしたお弁当についていたお味噌汁が、あさりかしじみの2択だったので貝は嫌い！と憤慨していたそうですね！」
 S「では、Mさんは何のお味噌汁なら食べられるのでしょうか？」
 A「普通にワカメだそうです…。Mさんのことはさておき、われわれですね。わたしは甘いものが好きですけど、しょっぱい系のお菓子も好きです。」
 S「よくAさんが休憩のときにおせんべいとか食べているのを見ておりますよ。」
 F「私も旅行先でおせんべいを焼いていてその匂いがとてもおいしそうでつい買ってしまいます。」
 S「確かに食べ物の匂いにつられてしまいますね。わたしは甘いものも好きです。」
 F「Sさんがこの間、言っていた某コンビニのチーズケーキ、私も買いました。すごくおいしかったです。」
 A「どんなチーズケーキなんですか？？」
 S「濃厚でとろっとしておいしいんですよ。」
 A「YA世代の小説でもスイーツとかカフェとか出てくるのが多いですよ。」
 F「Sさんも前回の「POP☆STEP☆JUMP」の展示のときに村山早紀さんの『カフェかもめ亭』を紹介されていましたよね。」
 S「2011年発売なので、10年ぐらい前のものですけど、一話完結ものでファンタジーがあったりほっこりしたり泣ける話もあったり、お薦めです！」
 F「あとは古内一絵さんの『マカン・マラン』とか。」
 A「スイーツだったら『ケーキ王子の名推理（スペシャリテ）』とかも人気ですね。」
 S「てことで、展示のテーマが食べ物なので、おいしそうな本を紹介できたらいいですね。」

☆隣で仕事をしながら聞いていたYA担当ではないMさんの感想☆
 「YA対談、いつもやったら横で聞いてて噴き出すとこあんねんけど、今回、淡々と進んでたなあ。」

※突っ込み役って必要ですね…。次回はM師匠（YA担当の）、対談に帰ってきてください！

←ブログやってるよ！<http://sanda-city-lib-ya.sblo.jp/>



ホンダラケ

2019.12.1

年末年始、飯を食おう。

A「年末年始ということで、おいしいものが出てくる本の特集です。
 さあ、いっぱい食べるぞー！」
 F「・・・読むのでは？」 A「そうでした」

キッチン風見鶏 森沢明夫 著

角川春樹事務所 2018年刊 F/モリ



異国情緒ただよう港町で、丘の上に建つ一軒家レストラン「キッチン風見鶏」。漫画家志望のウェイトアの青年、翔平は幽霊が見えるのが悩み。オーナーシェフである絵里は、家族の健康を心配しながらも頑張っている。キッチン風見鶏を取り巻く優しい人々（と幽霊たち）のお話です。皆悩みがあるけれど、自分の心に嘘をつかずに生きていく姿や、キッチン風見鶏のおいしそうな料理に元気をもらえます。読後感も爽やかで、お休みの日の読書におすすめです！

ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のYA（ヤングアダルト）コーナーでご覧いただけます。
 2か月に1度、年6回発行予定です。

ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。YAコーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

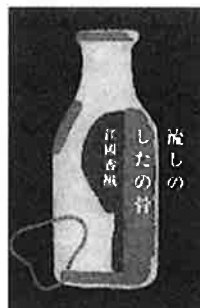
今回のテーマは「family」。

いろんな家族の姿。おもしろそうな本がいっぱいですよ。

『流しのしたの骨』 江國香織著

1996年刊 マガジンハウス F/Eク

個性的なこの6人家族には、一風変わったルールが沢山ある。どれも他の人からすると無意味に見える小さなルールもこの家族にとっては大切。そのお陰で家の中には心地よいリズムが流れ、どんな問題もその家族にとっての一番良い形におさまるのだ。そのリズムは物語を読むあなたの心にも流れ込んでくるだろう。読後には不思議な幸福感に包まれる一冊。



P.N. ざしきわらし (高校1年生)

新着図書 Pick Up

『夢のつかみ方、挑戦し続ける力』

早霧せいな：著 2019年刊 河出書房新社 775.4/サギ



著者の早霧せいなさんは、元宝塚トップスター。彼女は、14歳の時に「宝塚に入ってトップスターになる」という夢を持ち、そのために必要なことは何かを自分で調べ、目標を立て、突き進みます。倍率20～30倍とも言われる専門の音楽学校に入学して、かつトップスターになるというのは、簡単なことではありません。頂点に立つ人は才能のある人だけ？そんなことはありません。夢を持つこと、目標を立てること、そして叶えるために努力すること。早霧さんの夢を叶えるためのプロセスが、キラキラした未来への道を教えてください。

ホンダラケポストの投稿を紹介するコーナー ⑬

おすすめ本：『野生のロボット』

ピーター・ブラウン：作・絵 前沢明枝：訳
(P.N.はーちゃん さん)

『野生のロボット』です。まだと中までしか読んでないのですが、主人公のロスが動物たちとうちとけていくところに良さを感じました。」

投稿ありがとうございます！ ちょっと前にポストに入っていたのですが、すべて読まれたのでしょうか。

ロボットなのに、野生？と、のっけから疑問符が浮かぶタイトルです。主人公は、無人島に流れ着いたロボットのロス。初めは、周りの野生動物たちから怪物呼ばわりされますが、だんだん仲良くなっています。ほのぼのした暮らしでめでたしめでたしというだけでなく、家族、友情のあり方についてしみじみと考えさせられます。

静かな冬の日にはぴったりの一冊です。



G/ブラ 2018年 福音館書店

YA世代のために血を吐く思いで名作を紹介するコーナー

『誕生日の子どもたち』 トルーマン・カポーティ：著 村上春樹：訳 2002年刊 文藝春秋

人がこれまで目にしてきたもの、それがまさに神様のお姿だったんだよ。

この作品は少年を主人公とした短編小説が6編収録。その中でもお勧めしたいのが、『クリスマスの思い出』。作者の少年時代を背景に描かれており、登場人物の少年の年の離れた従姉妹のミス・スックがとても魅力的。11月の終わりに近い朝に、ミス・スックは宣言します。「フルーツケーキの季節が来たよ！」ケーキの材料を集め、たくさんのケーキを焼きます。一度も会ったことがないけれど、二人が気に入った人たちのために。

映画を見るような情景描写の美しさでクリスマスを迎えるワクワクした気分が子ども時代を思い出す切ない気分が味わえます。



933/カポ